



(報告事項)

# 平成25年度（2013年度） 事業報告書

自 平成25年4月 1日

至 平成26年3月31日



一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会

# 平成25年度（2013年度） 事業報告書

## 目次

### I. 2013年度の総括

### II. 各委員会の活動報告

1. 綱領委員会
2. 法務委員会
3. ISO20252 認証協議会
4. 公的統計基盤整備委員会
5. 出版委員会
6. 研修委員会
7. カンファレンス委員会
8. 調査技術研究委員会
9. 国際委員会
10. こころの健康向上委員会
11. プライバシーマーク審査会

### III. 事務局の活動報告

1. 他団体との活動
2. 定例活動

## I. 2013年度の総括

2013年度は基本方針を

「あらゆる活動をクライアントと共に」

とし、以下の重点課題に取り組んだ。重点課題について、平成25年度（2013年度）の活動総括を行う。

### 重点課題

1. 委員会活動の強化と相互連携の推進
2. 情報提供活動の推進
3. 外部諸機関との関係強化
4. 協会役員の体制強化とこれによる活動の充実

#### 1. 委員会活動の強化と相互連携の推進

カンファレンス委員会と、調査技術研究委員会、出版委員会、研修委員会とが連携し、各委員会活動を業界内外へ広く情報発信することができた。

その他、リサーチ環境の変化に伴う関連団体の動向収集として、綱領委員会、法務委員会、国際委員会にて連携し、海外の関連団体からの情報を共有し、委員会活動に活かした。

法務委員会主催セミナーでは、個人情報保護法改正の動きについて、経済協力開発機構（以下、OECD）での取り組みなどをご講演いただき、関連する綱領委員会、プライバシーマーク審査業務部の審査員も参加し、情報共有を行う連携活動を実施した。

#### 2. 情報提供活動の推進

出版委員会においてマーケティング・リサーチ誌のデジタル化を推進させた。また、国際委員会において、海外の協会向けに日本国内の業界情報などを発信した。その他団体展示会において、ブース出展し、JMRAの活動紹介などを行った。

#### 3. 外部諸機関との関係強化

公的統計基盤整備委員会と ISO20252 認証協議会が連携し、各省庁の統計関連部局の方々と情報交換を行った。これは公的統計の品質保証に ISO20252 を採用検討する府省との意見交換会であり、両委員会にとって大きな前進となった。

また、アニュアル・カンファレンスでは、経済産業省メディアコンテンツ課の方か

らはじめてご挨拶をいただくなど、業界団体として、関連省庁との関係強化が促進された。

#### 4. 協会役員の体制強化とこれによる活動の充実

副会長を4人体制に増員することで各委員会を管掌し、情報共有することで委員会活動の連携をスムーズに行い、協会運営を活発化させた。

## II. 各委員会の活動報告

### 1. 綱領委員会

リサーチ業界を取り巻く環境変化を踏まえ、日本における個人情報保護法改訂の動きに関連する各国における動向などを把握しつつ、マーケティング・リサーチ綱領のあるべき姿について議論を行った。引き続き、次年度も各国動向、個人情報保護法改訂などの状況を把握しながら、綱領についての議論を行う予定。

会員社向けサービスの一環としては、主要な **ESOMAR Guideline** の翻訳を行いホームページに掲載し、**APRC**（アジアのリサーチ協会連盟）が実施している **APRC mobile Guideline** の内容などを確認した。その他、入会審査を行った。

### 2. 法務委員会

社会の変化に伴うリサーチ業界を取り巻く環境変化を踏まえ、マーケティング・リサーチを実施する上で注意すべき法的な課題について、議論・検討を行い、会員社に向けて情報発信を行った。具体的事項は次のとおりである。

#### （1）法務ハンドブックⅢの増補版の作成

2011年に作成した法務ハンドブックⅢに盛り込むことができなかった法務課題について、議論を行い、増補版を作成した。

#### （2）新たな法務課題の募集

#### （3）CLT 調査における「道路使用許可証」対策

状況把握と警視庁へのアプローチ

#### （4）無料法律相談の実施

協会顧問弁護士による無料法律相談を月に1度実施した。

（12回開催、16社より23件の相談依頼／2013年度）

(5) 法務セミナーの実施

OECDにおけるパーソナルデータの取り組みや日本の個人情報保護法改訂について新保理事にご講演いただいた。同時に協会顧問弁護士である鈴木弁護士に新たな法的リスクについてご講演いただいた。

### 3. ISO20252 認証協議会

マーケティング・リサーチに関する技術の向上および普及を目的として、日本のリサーチ業界の代表として、ISO20252 第三者認証制度の普及活動を行った。具体的事項は次のとおり。

(1) 中小規模会社向けテンプレートの作成と基礎セミナーの実施

中小規模の会社が取得しやすくなるよう、テンプレートの作成と規格内容を説明する基礎セミナーを実施した。また、カンファレンスにおいて展示ブースを設け、会員社への説明を実施した。

(2) 公的統計基盤整備委員会との連携と官庁との情報交換

公的統計における民間活用の基盤整備を目的とする公的統計基盤整備委員会と連携し、官庁に対して、ISO20252 の有用性をアピールした。

(3) 各国における取得状況の情報収集

各国のリサーチ協会と連絡をとり、北米、欧州における本規格の取得状況とその背景について情報収集した。同時にバンコクで行われたワークショップに一ノ瀬委員長に参加していただき、アジア地域における状況について情報収集を行った。

(4) 国際投票に向けての議論

JMRA は、日本のリサーチ業界の代表として、TC225 (225 番目の Technical Committee) のメンバーとなっている。このことから日本の業界団体として、ISO から求められた ISO26362 と web リサーチの解析に関する内容について、本協議会で議論を行った。

### 4. 公的統計基盤整備委員会

<概観>

2006年の「公共サービス改革基本方針」策定及び2009年3月に閣議決定された「公的統計の整備に関する基本的な計画」に基づき、公的統計における民間事業者の活用は大幅に進捗している。

次期の「公的統計の整備に関する基本的な計画」等国の動きを注視しつつ、公的統計

における民間事業者のさらなる活用、公的統計への対応等を検討し、相互理解・共通認識の進展を期し、2012年度に引き続き積極的に当委員会活動をおこなった。

### (1) 委員会の構成

部会長、担当理事、委員長、副委員長（2名）、事務局長、幹事（6名）、委員（13名）、事務局（2名）、計27名

<正会員（17名）、賛助法人会員（4名）、賛助個人・一般（4名）、事務局（2名）>

### (2) 委員会の活動

2013年6月14日（金）に開催し、その後、2014年5月まで計11回開催した。

- 1) 幹事会：全体会議の前に開催して、委員会の活動方針の検討、各府省とのコンタクト・意見交換、報告書構成案の検討を行った。
- 2) 全体会議：活動報告と、学識者・府省の民間委託担当者等を講師に招き、今後の民間事業者の活用、公的統計の品質に関する最近の動向及びISO20252等についての講演、意見交換会を開催した。
- 3) 小委員会：具体的な課題についての研究及び検討を行った。
  - ①市場動向分析小委員会：会員各社動向と公的統計の民間委託実態調査
  - ②ガイドライン推進小委員会：ガイドラインに沿って各案件の検証
  - ③資格制度検討小委員会：資格制度への提言等

### (3) 活動詳細

- 1) 関係各府省統計主管トップへの表敬訪問  
総務省、内閣府、経済産業省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、東京都他
- 2) 各府省「民間事業者の活用の見直し・改善に関するWG」と当委員会との意見交換会
- 3) 講演会・意見交換会（計4回）  
委員会連携によるISO認証協議会、厚生労働省、農林水産省、ハワイ大学教授
- 4) 「公的統計市場に関する年次レポート2012」発刊
- 5) 日本統計学会・統計検定センターとの共同活動（資格認定検定試験）
- 6) 内閣府統計委員会、入札監理小委員会等への傍聴（毎月）
- 7) 「調査インフラ等に関する実態調査」の企画・実施
- 8) 2013年度民間調査機関を活用した統計調査の一覧作成
- 9) 日本品質管理学会主催の「統計・データの質マネジメント研究会」報告書執筆
- 10) JMRA ホームページで「公的統計基盤整備委員会」の活動報告及び依頼公示案件のアップ

## 5. 出版委員会

### (1) 『マーケティング・リサーチャー』の発行

調査機関と調査ユーザーとのパートナーシップをはかり、マーケティング・リサーチの役割や意義を高めていくことをミッションとしながら、MRをめぐる「上質な」情報を盛り込んだ専門性のある業界誌として No.121～123 を発行した。

《No.121》 2013年7月22日発行（2,000部発行）

特集：～グローバルマーケット～現地の暮らしや気持ちをどうつかむか

市場を語る・市場は語る（Interview）：

初音ミクで世界とつながる～ユーザー発信の文化創造～

クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 伊藤 博之氏

《No.122》 2013年10月30日発行（2,700部発行）

特集：未来をつくり出すリサーチ

市場を語る・市場は語る（Interview）：

SNSでつなぐビール愛好家と企業の技術

サッポロビール株式会社 鈴木 雄一氏

《No.123》 2014年3月27日発行（2,000部発行）

特集：熱中するリサーチ

市場を語る・市場は語る（Interview）：

顧客を“信じる”～顧客満足度の高さの秘訣～

四季株式会社 吉田 智誉樹氏

上記のほか、常設コンテンツとして、前年度に引き続き、各号に以下の記事を掲載した。

「ちょっと教えて」（104号より）

－調査現場で直面するちょっとした悩みや迷いに、考え方の一例を紹介

「マーケターの独りごと」（106号より）

－クライアントの普段感じることを紹介することでリサーチファームとクライアントの双方が取り組むべき、リサーチ課題解決のヒントを得るためのコーナー

「What They Say」（119号より）

－号ごとにテーマを設定し、それに関する海外の議論の内容を紹介する。

「ベネフィットワードを読み解く」（120号より）

－現代日本の生活者像を捉える重要かつ抽象度の高いワードを取り上げ、その価

値の内実の意味の分解、意味の広がり、意味内容の変化などを考察する。

「高付加価値なリサーチはいかに可能か」（120号より）

ーリサーチサービスのビジネスモデルのあり方について、取材などを通じて、様々な切り口から考察する。

(2) 『マーケティング・リサーチャー』のさらなるコンテンツの充実と質の向上

1) 常設欄の見直しと新設

マーケティング・リサーチに関連する良書を取り上げて紹介していた「Book Review」について、マーケターやリサーチャーに関心をもたれるある領域について、その習得に適切な3冊を新旧問わず紹介する常設欄にリニューアルさせた。

2) 読者フィードバック体制の継続

113号発行時から開設した読者アンケートサイト「読者の声“ご意見直通便”」において、2011年10月より読者アンケートモニターを設定し、様々な立場の読者より継続的に意見を聴取している。2013年度は、前年度に続きモニターの増強を行い、課題やアイデアを関連欄ごとにストックし、誌面作りに反映している。

(3) 『マーケティング・リサーチャー』のさらなる浸透と新規読者の獲得

以下の各施策を進め、同誌のより一層の浸透を図るとともに、新たな読者の獲得を目指した。

1) 発行案内のポスター配布による社内閲覧の促進活動

会員社の社内での閲覧が進むよう、本誌発行時にポスターを同封し、社内掲示等を促している。

2) JMRA アニュアル・カンファレンスにおける本誌連動企画プログラムの企画運営

機関誌「マーケティング・リサーチャー」122号特集のライブ版として、「未来をつくり出すリサーチ～デザインの世界に学ぶ価値創造の方法論～」と題したパネルディスカッションプログラムの企画・運営を担当した。会場では、当該号を来場者に配布して、本誌の存在を広くアピールした。

3) JMRA 出版委員会企画特別セミナーを通じた普及活動

2014年3月17日に、出版委員会委員である中央大学大学院客員教授の朝野熙彦氏の編著書をテキストとした「ビッグデータの使い方・活かし方ーマーケティングにおける活用事例」セミナーを開催した。多くの会員社並びに一般企業から参加いただき、学びの場を通じて本誌の認知を広げた。



#### 4) 英訳資料による海外向け展開

119号より開始した。目次及び特集の主旨の英訳を継続して行い、JMRA ホームページ英語版に掲載したり、海外関係団体への本誌送付時に同封したりしている。

#### 5) 「日経テレコン21」へのコンテンツ提供

2009年に「日経テレコン21」へのコンテンツ掲載を開始し、2013年度も掲載を継続した。

2013年度中には678件のダウンロードがあり、95,893円の収益となった。(参考: 2012年度中のダウンロード数は651件、90,976円の収益であった。)

## 6. 研修委員会

### (1) セミナー内容の見直しと新たなセミナーの企画

「統計分科会」、「定性分科会」、「トピックス分科会」と2011年度に新設した「集客分科会」の4分科会にわかれ、JMRAの各講座について、開催状況を確認しながら、継続的な改善点の抽出や、新たなセミナー企画について検討を続けた。

「統計分科会」では、2011年度に講師と検討を行い再編成したプログラムについて、それが伝わるよう、講座タイトルを改め、5講座の位置づけをわかりやすくした。また、「質的データのマイニングのための対応分析法講座」を新設した。その他、より実践的に統計分析を活用するための講座新設について、検討を続けている。

「定性分科会」では、2010年度に新たに開設した「インタビューテクニック講座」や「消費者インサイトー隠れた心理と本音の探索力を磨く講座」を含め、全4講座を開講した。「インタビューテクニック講座」には新たにグループ制を導入したり、「投影法がわかる講座」を「消費者インサイトー隠れた心理と本音の探索力を磨く講座」に改題したりして、より受講しやすいものとした。

「トピックス分科会」では、2011年度に新設した三木康夫先生による「マーケティングとマーケティング・リサーチセミナー」シリーズを開講したほか、2012年度に新設した、研修委員会が講師を担当する、「リサーチャーのためのプレゼンテーションスキルセミナー」を2回開催し、より多くのリサーチャーのプレゼンテーションに対するマインドセットに貢献した。また、新たな手法として「ワールドカフェ」を取り上げ、セミナー化に向けた検討を続けた。

「集客分科会」では、セミナーの案内方法について、現状分析と施策検討を行い、Facebookの活用を試験的に開始した。

### (2) JMRA アニュアル・カンファレンスにおける「若手リサーチャーのチャレンジ! (プレゼンテーションコンテスト)」の企画運営および実施

カンファレンス委員会からのコラボレーション企画提案を受け、JMRA アニュアル・カンファレンスにおける「若手リサーチャーのチャレンジ！（プレゼンテーションコンテスト）」の企画から実施までを担当した。

プレゼンテーションの課題設定、事前の中間セッション、作成資料に対するアドバイス、等を通じて、当日のプログラムだけでなく、それに至る出場者の成長をサポートするプログラムとした。

また、本企画について、機関誌「マーケティング・リサーチャー」122号へ特別寄稿を行い、研修委員会の「リサーチャーのプレゼンテーション」に対する問題意識を啓蒙した。

**<平成 25 年度（2013 年度）に計画した研修>**（講師の所属および肩書は開催当時のものです。）

区分	No.	研修名	日時 日数	会場	講師	参加
総合	1	2013 年度新人リサーチャー合宿セミナー	2013/4/17～19 (2泊3日)	ヴィラフォンテーヌ汐留 汐留コンファレンス	(注1)を参照ください。	正会員 6 社(14 名) 賛助法人会員 2 社(7 名) 一般 8 社(10 名) 合計 31 名
	2	マーケティングとマーケティング・リサーチセミナー(総論編)	2013/6/25	JMRA 研修室	株式会社 カンター・ジャパン 三木 康夫氏	正会員 4 社(5 名) 賛助法人会員 5 社(13 名) 賛助個人会員 1 名 一般 2 社(2 名) 合計 21 名
	3	マーケティングとマーケティング・リサーチセミナー(各論編 1)	2013/10/22	JMRA 研修室	株式会社 カンター・ジャパン 三木 康夫氏	正会員 2 社(2 名) 賛助法人会員 4 社(5 名) 一般 4 社(6 名) 合計 13 名
	4	マーケティングとマーケティング・リサーチセミナー(各論編 2)	2013/11/26	JMRA 研修室	株式会社 カンター・ジャパン 三木 康夫氏	正会員 4 社(4 名) 賛助法人会員 4 社(4 名) 一般 5 社(5 名) 合計 13 名
統計関連	5	はじめての方の統計分析講座	2013/5/24,31; 6/7,14,21,28;7/5 (事前講義+6日間)	JMRA 研修室	慶應義塾大学 総合政策学部教授 桑原 武夫氏	正会員 1 社(1 名) 一般 6 社(6 名) 合計 7 名
	6	統計的データ解析の基礎講座	2013/12/3,10,17, 25;2014/1/14 (5日間)	JMRA 研修室	統計数理研究所 名誉教授 大隅 昇氏	正会員 1 社(1 名) 賛助法人会員 4 社(8 名) 一般 5 社(6 名) 合計 15 名
	7	今からでも遅くない	2014/2/4,10,18,25	JMRA 研修室	統計数理研究所	正会員 2 社(4 名)

		基礎統計学講座	3/4 (5日間)		名誉教授 大隅 昇氏	賛助法人会員 4社(4名) 一般 6社(8名) 合計 16名
	8	多変量解析の使い方入門講座	2013/7/22,24,26,29 (4日間)	JMRA 研修室	筑波大学 心理学系 教授 松井 豊氏	正会員 1社(1名) 賛助法人会員 6社(15名) 賛助個人会員 1名 一般 1社(1名) 合計 18名
	9	多変量解析の活用講座	2014/1/17,24,31; 2/7,14,28;3/7,14 (事前講義+7日間)	JMRA 研修室	慶應義塾大学 総合政策学部教授 桑原 武夫氏	正会員 4社(6名) 賛助法人会員 3社(3名) 賛助個人(1名) 一般 4社(5名) 合計 15名
	10	質的データのマイニングのための対応分析法講座	2013/10/21,29; 11/5,12 (3日間+追加講義)	JMRA 研修室	統計数理研究所 名誉教授 大隅 昇氏	正会員 6社(8名) 賛助法人会員 3社(3名) 賛助個人会員 1名 一般 4社(5名) 合計 17名
定性調査関連	11	定性調査の基礎講座	2013/6/11,12,19, 26;7/3,10 (6日間)	JMRA 研修室	フリーリサーチャー 肥田安弥女氏, 統計調査センター 株式会社 林 美和子氏	正会員 5社(7名) 賛助法人会員 4社(4名) 一般 4社(4名) 合計 15名
	12	定性調査の分析と企画(ラダリングと調査課題の立て方)講座	2013/11/6,7,13,20 (3日間+追加講義)	JMRA 研修室	フリーリサーチャー 肥田 安弥女氏, 統計調査センター 株式会社 林 美和子氏	正会員 5社(5名) 賛助法人会員 4社(5名) 一般 7社(8名) 合計 18名
	13	消費者インサイトー隠れた心理と本音の探索力を磨く講座	2013/9/11,18,19, 26 (2日間)	JMRA 研修室	フリーリサーチャー 肥田 安弥女氏 株式会社 カンター・ジャパン 中村 亜砂子氏	正会員 2社(3名) 賛助法人会員 3社(3名) 一般 1社(1名) 合計 7名
	14	インタビューテクニック講座	2014/1/22,29;2/5 (3日間)	JMRA 研修室	統計調査センター 株式会社 林 美和子氏 株式会社インテージ 赤塚 史恵氏	正会員社 5社(6名) 賛助法人会員 3社(5名) 賛助個人(1名) 一般 6社(8名) 合計 20名
トピックス	15	リサーチャーのためのプレゼンテーションスキルセミナー	2013/5/23	JMRA 研修室	JMRA 研修委員会	正会員社 7社(15名) 賛助法人会員 2社(2名) 一般 1社(1名) 合計 18名

16	リサーチャーのためのプレゼンテーションスキルセミナー	2014/1/23	JMRA 研修室	JMRA 研修委員会	正会員社 1社(3名) 賛助法人会員 3社(4名) 賛助個人(2名) 合計 9名
		合計	<今年度> (※トピックスセミナーを除く) 正会員 57社(85名) 賛助法人会員 54社(85名) 賛助個人会員 7名 一般 64社(76名) 合計 253名	<昨年度> (※トピックスセミナーを除く) 正会員 49社(70名) 賛助法人会員 40社(69名) 賛助個人会員 1名 一般 57社(68名) 合計 208名	

(注1) (講演順 ※所属および肩書は開催当時のものです。)

講師: 綱領委員会 千田英博氏、株式会社カンター・ジャパン 三木康夫氏、統計調査センター株式会社 深野晴彦氏、株式会社ジャパン・マーケティング・エージェンシー 後藤幹芳氏、JMRA 賛助個人会員 渡部政喜氏、統計調査センター株式会社 林美和子氏、フリーリサーチャー 肥田安弥女氏、株式会社電通マーケティングインサイト 渡邊瑞規氏、トヨタ部品 神奈川共販株式会社 白戸潤氏

JMRA 研修委員会委員: 研修委員会担当理事- 槐早苗氏、研修委員会委員長- 増田一郎氏 森川弘康氏、赤塚史恵氏、飯島眞也氏、香取一昭氏、後藤幹芳氏、中村亜砂子氏、西久保敬一氏、萩原雅之氏、渡部政喜氏、山本五紀氏

## 7. カンファレンス委員会

「2013年 JMRA アニュアル・カンファレンス実施概要」

テ	マ: 「×R (コラボレーション)」
日	時: 2013年11月29日(金)
会	場: ハイアットリージェンシー東京 B1F
参	加者数: 合計 683名 (参加者 548名、発表者・スタッフ 82名、学生 53名) このうち 291名がクライアント側からの参加となり、参加申込者数では 800名を超えることとなった。
ス	ポンサー数: 27名
基	調講演: 統計家 西内 啓様「統計学は最強の学問である」著者
特	別講演: サントリーホールディングス株式会社 佐藤 真海様 東京オリンピック招致委員
ご	挨拶: 経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長補佐 仲 舎菜子様

「センチュリー会場 A」

プログラム内容	発表者／発表タイトル
ご挨拶	JMRA 会長 牧田 孝
基調講演	統計家 西内 啓様「統計学は最強の学問である」
MR×[コミュニティパネル]	「リクルートのコミュニティパネルを活用したコ・クリエーションの取り組みについて」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社リクルートテクノロジーズ 坂本千映子氏</li> <li>・株式会社コントロールユー 谷本 秀一氏</li> </ul>
MR×[クラウドソーシング]	「プロの時代をつくるクラウドソーシング」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京工業大学 イノベーションマネジメント研究科 技術経営専攻 比嘉 邦彦 教授</li> </ul>
MR×[オウンドメディア]	「オウンドメディアとマーケティングリサーチで広がる顧客接点」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社つなぐネットコミュニケーションズ 事業推進本部 WEB 事業部 部長 栗原 克仁氏</li> </ul>
MR×[コクリエーション]	「ソーシャルメディアで変わる共創マーケティングの未来」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリン株式会社 CSV 本部コーポレートコミュニケーション部 Web 推進担当 小川 直樹氏</li> <li>・株式会社トライバルメディアハウス 代表取締役社長 池田 紀行氏</li> <li>・株式会社インデックス・アイ 代表取締役副社長 山崎 晴生氏</li> </ul>

「センチュリー会場 B」

(調査技術研究委員会発表／活用事例／パネルディスカッション)

プログラム内容	発表者／発表タイトル
J M R A 調査技術研究委員会発表	「調査技術の今」 -WEB 調査の実態／デバイス／動画配信サイト／SNS／MROC- (発表順) <b>【2011～2012 年度の研究内容発表】</b> 「インターネット調査の運用実態に関する調査研究」 発表者 <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社クロス・マーケティング 林 直紀氏</li> </ul> 「デバイスの多様化に伴う検証研究報告」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者 株式会社日本リサーチセンター 黒須 章喜氏</li> </ul> 「動画配信サイトを利用した観察調査手法の研究報告」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者 株式会社サイズ 星野 洋子氏</li> </ul> 「マーケティングにおけるソーシャルデータ活用のための基礎研究報告」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者 楽天リサーチ株式会社 出口 敬子氏</li> </ul> <b>【2013～2014 年度研究内容について】</b> 「2013 年度 MROC に関する研究内容について」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者 楽天リサーチ株式会社 森 学氏</li> </ul>
活用事例①	「表情解析実験調査」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社インテージ リサーチソリューション開発部シニアアナリスト 生田 征志氏</li> <li>・株式会社ソフィア・サイエンティフィック プロダクト・マネージャー 梅澤 真司氏</li> </ul>

活用事例②	「コミュニティとリサーチのコラボレーション事例」 ・ 楽天リサーチ株式会社 マーケティング企画部副部長 白石 章兼氏
活用事例③	「ソーシャルメディアの“呪縛”を離れたリスニングのアプローチ ・ 定性的な分析が一步前に進む鍵」 ・ 株式会社電通 iPR 局ソーシャルリスニング部 チーフプランナー 國井 彰子氏 (株式会社電通マーケティング・インサイトより出向)
パネルディスカッション (出版委員会コラボ企画)	(JMRA 出版委員会機関誌「マーケティング・リサーチャー」 122号特集連動企画) 未来をつくり出すリサーチ ～デザインの世界に学ぶ価値創造の方法論～  <モデレーター> ・ 中央大学大学院 戦略経営研究科 朝野 熙彦客員教授 <パネリスト> ・ 拓殖大学 工学部 デザイン学科 岡崎 章教授 ・ サントリー食品インターナショナル株式会社 食品事業部 ブランド戦略部 シニアスペシャリスト/クリエイティブディレクター 加藤 芳夫氏 ・ 株式会社ロフトワーク イノベーションメーカー 棚橋 弘季氏

#### 「クリスタル」研修委員会コラボ企画

プログラム内容	発表者/発表タイトル
若手リサーチャーの チャレンジ	◆最優秀賞 ・ 株式会社ビデオリサーチ 松原 明完氏 ◆優秀賞 ・ 株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント 福谷 春奈氏 ・ 株式会社マクロミル 石井 紀之氏

#### 「桃山」

プログラム内容	発表者/発表タイトル
特別講演	サントリーホールディングス株式会社 佐藤 真海様 東京オリンピック招致委員
ご挨拶	JMRA カンファレンス委員会担当理事 小西 克己

参加者アンケート結果では、「非常に良かった」、「良かった」と答えた方が基調講演では、85.3%となり特別講演では91.7%となるなど、非常に高い満足度を得ることができた。他コンテンツの満足度も非常に高い返答を得ていることから、時代に即したカンファレンスの開催ができた。

## 8. 調査技術研究委員会

マーケティング・リサーチ技術の開発研究、新たな技法や今日的な問題を取り上げ、その活用や問題解決の方向を探り、業界内外に情報発信をすることで、マーケティング・リサーチ業界の地位向上を図ることを目的に、研究を進めている。本年度は新たにテーマを「MROC (Marketing Research Online Community) の効果的な活用方法について」と設定し、研究を進めた。

本研究においては、調査期間の長短、人数の大小によって取得できる情報量が、どの程度変化するか検証を行い、最適な人数、期間を語れる材料とすることを目指した。

## 9. 国際委員会

2013年度の国際委員会は、「海外情報の収集と発信」「若手リサーチャーの国際化への取り組み」に関して活動した。

### (1) 「海外情報の収集と発信」

国際委員において収集した情報を、協会ホームページにて公開した。また、日本の協会活動(JMRAカンファレンス概要、日本の市場規模など)について、APRC、GRBNなどへ発信した。

### (2) 「若手リサーチャーの国際化への取り組み」として国際若手フォーラムの実施

開催日	会社名	部署/役職	お名前	タイトル
7/4(木)	aetna	Head of Market & Consumer Insights Marketing, Product & Communications	増田 尚子様	From Data to Insights, From Finding to Influencing - アメリカのインサイト業界の課題 -
9/27(金)	株式会社資生堂	経営企画部 市場情報室 室長	下森 清様	「これからのリサーチCTQ (Critical To Quality) をどう考えるか？」
10/24(木)	HONDA 株式会社		繁 浩太郎様	『HONDAの製品開発』～調査をどう使って製品開発に活かしていくのか?～
11/18(金)	キリン株式会社	CSV本部 ブランド戦略部 リサーチ室 室長	野沢 誠治様	「消費財メーカーにおけるリサーチの活用と課題～企業事例～」
1/24(金)	グラクソ・スミスクライン株式会社	MRサービス部 マネージャー	高見 恵子様	「メディカルリサーチから見た、リサーチャーに望むこと」
2/28(金)	ハウス食品グループ本社株式会社	国際事業本部 国際事業本部長付	高垣 敦郎様	「30年のリサーチ実務経験から提案 N=1のマーケティングリサーチとカテゴリー開発」



## 10. こころの健康向上委員会

本委員会は3年目を迎えた。徐々に委員会活動が会員社に認知されはじめ、初年度より参加会員社が7社、メンバーが7名増え、委員数22名となった（参加社数16社・個人会員3名）会員社のメンタルヘルスへの関心がますます高まってきたと実感している。また、毎月一回の委員会は、委員の協力により内容も充実した一年であった。今年度の活動実績は以下の通り。

### (1) 委員会参加社のメンタルヘルスに対する取り組み事例の共有

- ・昨年度に続き、共通の質問シートを利用して参加社からメンタルヘルス不調の現状、実施している対策や課題について発表してもらい、質疑応答を行った。
- ・最終的に、昨年度作成した「ヒアリングのまとめ」に新規参加会員社の事例を加えて作成した。
- ・各社の機微な情報のため、すべての情報は公表できないが、今後の会員サポート事業を推進する上で、参考資料として活用していく。

### (2) 委員会内での講演・研修

外部講師と委員による講演と研修を実施した。

- ・ 講演①「自分のコミュニケーションタイプを知る」

シニア産業カウンセラー 委員 吉田 千晶氏

- ・ 講演②「精神障害の労災認定について」

特定社会保険労務士 本山 恭子氏

- ・ 講演③「企業の健康管理活動について～保健師の立場から～

株式会社インテージ・アソシエイツ 健康管理室 保健師 委員 矢吹 みどり氏

- ・ 講演④「発達障害」

NPO 法人キャリアデザイン研究所 理事 直井 敏雄氏

### (3) 会員社向け講演会の開催

- ・ 12月18日 会場：（協会研修室）今年度は、「うつ病」という枠を飛び越え、発想を変えて、ネガティブメンタルヘルスから、ポジティブメンタルヘルスへの志向を主張される浜口 伝博先生を迎えて、ポジティブメンタルヘルスのすすめー「あなたと部下のためのメンタルヘルス」と題して講演を行った。会員社と外部の方を含めて41名の参加であった。

### (4) 職場のメンタルヘルス相談事業の実施

メンタルヘルスについての会員社支援事業として期待されている「メンタルヘルス相談窓口」を引き続き開設。随時受け付けとし、委員である産業カウンセラーの福



原氏、吉田氏が担当となった。今年度の利用は2社。

## 1 1. プライバシーマーク審査会

### (1) 審査業務の実施

今期のプライバシーマークの新規取得、更新申請をおこなった正会員社については、どこおりなく書類審査および現地調査を行い、プライバシーマーク審査会に報告し、可否の手続きを行った。(更新：48社、新規取得：1社 合計：49社)

2013年度3月末のプライバシーマーク取得社は、取得社の退会、合併により、正会員社132社中 105社となった。

月別のプライバシーマーク審査会における付与適格決定事業者数は次の通りである。

第89回	2013年	4月22日	付与適格決定事業者数：6社(更新5社、新規1社)
第90回	2013年	5月21日	付与適格決定事業者数：3社(更新3社、新規0社)
第91回	2013年	7月5日	付与適格決定事業者数：8社(更新8社、新規0社)
第92回	2013年	8月2日	付与適格決定事業者数：8社(更新8社、新規0社)
第93回	2013年	9月20日	付与適格決定事業者数：5社(更新5社、新規0社)
第94回	2013年	10月18日	付与適格決定事業者数：4社(更新4社、新規0社)
第95回	2013年	11月22日	付与適格決定事業者数：4社(更新4社、新規0社)
第96回	2013年	12月20日	付与適格決定事業者数：4社(更新4社、新規0社)
第97回	2014年	1月24日	付与適格決定事業者数：5社(更新5社、新規0社)
第98回	2014年	3月20日	付与適格決定事業者数：2社(更新2社、新規0社)
審査会実施回数：10回			付与適格決定事業者数：49社(更新48社、新規1社)

### (2) 審査員の教育・研修

審査内容の統一化、審査技術の向上などを図るため、資格更新のため定められている外部機関での「フォローアップ研修」等に参加した。また、審査業務部内において審査員連絡会を実施した。

- 1) プライバシーマーク審査員 フォローアップ研修《8/21 晴海会場》
- 2) JIPDEC 審査員説明会
- 3) プライバシー審査員連絡会

### (3) 新しい審査方式として計画書の導入トライアルを開始した。

### Ⅲ. 事務局の活動報告

#### 1. 他団体との活動

##### (1) 国内他団体との活動

- ・経産省をはじめ、他関連団体との情報交流
- ・社会調査協会設立 10 周年記念シンポジウムに、牧田会長が参加  
社会調査協会 飽戸 弘会長、世論調査協会 柳井 道夫会長とのパネルディスカッション
- ・品質管理学会に JMRA として、鈴木督久副会長と武井監事が委員として参加
- ・統計教育大学間連携ネットワークの外部評価委員会に JMRA として、鈴木督久副会長が委員として参加
- ・大阪府人権室との意見交換会に JMRA として、渡部事務局長が参加
- ・その他、産学連携の一環としてセミナーを受け持っていたいただいている大学の先生方との情報交換

##### (2) 海外他団体との活動

APRC (ASIA PACIFIC RESEARCH COMMITTEE) 加盟国、GRBN (GLOBAL RESEARCH BUSINESS NETWORK)、ESOMAR、ISO 国際事務局との情報交流を行った。

#### 2. 事務局活動

##### (1) 個人情報保護マネジメントシステム (以下 PMS) の構築

プライバシーマーク指定審査機関として、プライバシーマークと同等のマネジメントシステム導入に向け構築を開始した。2014 年度中に運用開始予定。

##### (2) マーケティング・リサーチに関する内外関係機関等との交流および協力

###### 1) 会員社懇親会

通常総会終了後に開催した。

日 時：2013 年 5 月 28 日 (火)

会 場：ハイアットリージェンシー東京 地下 1 階

参加者人数：約 200 名 (理事、委員、事務局を含む)

###### 2) 経営者フォーラム

「第 17 回経営者フォーラム」を開催した。

日 時：2014 年 2 月 27 日 (木)

会 場：ハイアットリージェンシー東京 地下 1 階「飛鳥」

テ ー マ : 「これからの日本経済を読むポイント！」

“アベノミクス” か “アベゲドン” か、世界と日本経済読み解くカギ

講 師 : 松井 正憲氏 (株式会社日経リサーチ)

### 3) 広告界賀詞交換会

2014年1月8日、帝国ホテルにおいて、マーケティング関連団体30団体共催の「広告界賀詞交換会」が約1,500名の参加を得て、開催された。なお、当協会から、会員社4社(7名)が参加した。

### (3) 第38回 経營業務統計実態調査の実施

- ・実 施 : 2013年4月8日~6月13日
- ・回 収 率 : 83.7% (135社中 113社回収)

### (4) 協会発行物の作成

- 1) 2014年版リサーチャーズ手帳の発行  
995冊 発行
- 2) 正会員社証明書・調査員証明書の発行  
16社 1,187枚 発行
- 3) 会場テスト用証明書の発行  
69社 1,080枚 発行
- 4) 手提げ袋の販売  
15社 15,700枚 販売
- 5) マーケティング・リサーチ綱領の配布を行った。  
80冊 配布

### (5) マーケティング・リサーチに関する苦情の処理

2013年度(2013年4月1日から2014年3月31日の間)、マーケティング・リサーチに関する問い合わせ件数は11件であった。

#### 1) 問い合わせ元の内訳

消費者団体より	2件
対象者より	7件
その他より	2件

#### 2) 問い合わせの内容 (11件から合計13件の問い合わせ)

1. 調査依頼されたが、きちんとした会社なのか	4件
2. 飲食をするグループインタビュー調査で適切な対応がなかった為不愉快	1件
3. 街頭のリクルーターの態度が悪い	1件
4. JMRA 所属の正会員社の調査で不愉快な思いをしたので指導して欲しい	1件
5. 調査内容が個人情報まで記入する内容で不安	1件
6. 調査内容に関する質問電話をした所、対応が悪く不愉快	1件
7. 調査に協力したいがどうしたらよいか	1件
8. 謝礼金について法的な解釈を教えてほしい	1件
9. 調査を名乗る不審な電話があつて不安	1件
10. マーケティング・リサーチとはいったいどのようなものなのか	1件

#### (6) 会員の動向

##### 正会員社

入会 1社

株式会社スガタリサーチ 2014年 2月

退会 5社

イブソスヘルスケアジャパンリミテッド 2013年 9月  
 株式会社ネオマーケティング 2013年 9月  
 ファーマフォーサイト株式会社 2013年10月  
 株式会社サーベイネットワーク 2013年12月  
 株式会社ボーダーズ 2014年 3月

これにより2014年3月31日現在、正会員社総数 132社

##### 賛助法人会員

入会 7社

RANDOM DYNAMIC RESOURCES LTD 2013年4月  
 株式会社ジュピターテレコム 2013年4月  
 オルフェウスコンサルティング株式会社 2013年9月  
 武田薬品工業株式会社 2014年1月  
 トルーナ・ジャパン株式会社 2014年2月  
 株式会社デモ 2014年2月

退会 1社

これにより2014年3月31日現在、賛助法人会員社総数 85社

賛助個人会員

入会 14名

退会 19名

これにより2014年3月31日現在、賛助個人会員者総数 128名

(7) 一般企業からの問合せに対し、専門調査会社（正会員社）紹介 11件

以下 余白